【2022年10月】

# エンゲージメントサーベイ 結果報告書 (公表用)



### 実施概要

調査目的	<ul> <li>「統計の作成」だけでなく、「利活用促進」という新たなミッションが求められている調査統計グループにおいて、現状の組織のエンゲージメント状態(期待度・満足度)を様々な切り口から把握すること</li> <li>・調査統計グループの職員がミッションに共感し、さらに活躍できる組織になるために必要となる施策、進め方等を検討すること</li> </ul>		
実施時期	2022年9月26日(月) ~ 10月5日(水)		
発出方法	リンクアンドモチベーション社 サーベイシステム(LM-DOC)を利用		
調査内容	組織のエンゲージメントに関係する16領域・64項目に対して、その『期待度』および『満足度』を5段階で回答		
対象者	199名		
回答数/率	162名 / <b>81.4%</b> cf. 未回答者内訳(回答中: 4名、未回答: 33名)		

## 参考:エンゲージメントスコアについて

### 社員共感指数(エンゲージメントスコア)は、 日本最大級のデータから生まれた組織状態を可視化できる「モノサシ」です。

#### 社員の会社に対する共感度合い(社員エンゲージメント)

をアンケートによって可視化・数値化したものが 社員共感指数 (エンゲージメントスコア) です。

#### 蓄積データ

国内最大級 8,740社 237万人以上

※2022年10月末時点



■社員共感指数 (エンゲージメントスコア)と判定 (レーティング) の関係 ※11段階の格付けです

エンゲージメント レーティング	エンゲージメント スコア	組織の信頼度
AAA	67以上	高
AA	6 7 未満	同
А	6 1 未満	<b>A</b>
BBB	5 8 未満	T
BB	55未満	
В	5 2 未満	
CCC	4 8 未満	
CC	4 5 未満	
С	4 2 未満	
DDD	3 9 未満	/⊏
DD	3 3 未満	低

### 参考:エンゲージメントスコアと組織状態

エンゲージメントスコアが表す組織状態は以下の通りです。

### 特にC・Dレーティングにおいては、前提となる"信頼関係"が不足している可能性があります。

レーティング	スコア	組織状態	想定されるシーン
AAA	67以上	信頼関係が 強固な状態	・上司からの具体的な指示がなくとも、 メンバー(部下)が主体的に動く
AA	67未満	強回なれば	・組織の弱みを「改善対象」と捉えており、
A	61未満		自分たちで解決していこうという意識がある
ВВВ	58未満	信頼関係があり 話せばわかり合える状態	  ・上司からの指示があれば、メンバー(部下)は動く
ВВ	55未満	$Q_{\mathbf{i}}$	・組織の弱みに対して問題意識を持っており、
В	52未満	الاسك	誰かが行動するなら、それに協力する意識がある 
CCC	48未満	信頼関係に 不安がある状態	・メンバー(部下)は嫌々ながらも、上司からの指示に従う
ССС	45未満		・組織の弱みに対して、自分に非はないと思っており、
С	42未満		誰かに何とかしてほしいと思っている 
DDD	39未満	信頼関係が崩れ 再構築が必要な状態	・上司から指示しても、メンバー(部下)は動こうとしない
DD	33未満	• <b>••••••••••••••••••••••••••••••••••••</b>	・組織の弱みを、自分に非はない「不満」と認識し、 そもそも解決をあきらめてしまっている

※スコアは全国平均を「B 50.0」とした偏差値です。

#### 解決に向けた前提

本質的な組織改善に向けては、

一次的な「患部治療」ではなく、中長期を見据えた「体質改善」が重要です。

患部治療 アプローチ

(例) 一次的なコミュニケーション施策 体質改善アプローチ

(例) 継続的な組織全体の変革プラン

「部分的な問題」ではなく「組織に根付く体質」に課題が生じているため "一時的"ではなく"中長期的"な組織変革プランを描くことが重要です。

事業づくりに終わりがないように、組織づくりにも終わりはありません。 企業価値や組織力を高めるために、診断と変革を継続し続けることがポイントです。

### 診断

#### 組織・個人の状態を把握

全社サーベイ 定量 職場サーベイ 診断 個人サーベイ など

定性 診断

- トップインタビュー
- 現場インタビュー など



### 再診断

### 再変革

再診断

変革

診断

### 変革

#### 組織・個人に変わる機会を提供

Membering (人材開発)

- 新卒、中途採用
- 研修トレーニング など



- Mission (役割設計)
- ミッション、行動指針策定 各役割機能の明確化
- など



- Monitoring (管理制度)
- 人事制度構築
- 表彰、インセンティブ設計 など



### 「変革」の2つのプロセス

### 変革フェーズにおいては、「組織基盤の構築」と「将来課題の対応」の 2つのプロセスに分けて対応することが有効です。

将来課題の 対応

# ありたい姿の実現

・人に例えると:マラソン大会に出る

組織基盤の 構築

# 顕在化している問題の解消

・人に例えると:風邪を治す

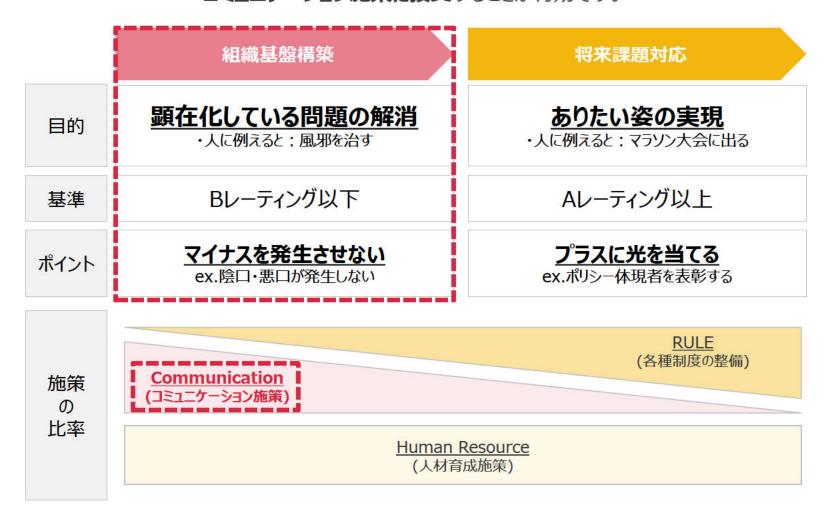
# 調査統計Gにおける「診断・変革」のステップ(案)

大まかに下記の流れで組織変革を実施していくことが望ましいと考えます。 直近の1年間の施策としては、「組織基盤の構築」への注力がポイントです。

「組織基盤の構築」				「極本運算	の対応し	
期待の	期待の醸成		変化の手応え		「将来課題の対応」	
	2022年度後期 (10月~3月)		=度前期 √10月)		=度後期 ~3月)	
診断	変革	再診断	再変革	再診断	再変革	
Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6	
組織診断	顕在化 している問題 の解消①	組織再診断	顕在化 している問題 の解消②	組織再診断	ありたい姿 の実現	
	パルスサーベイ 効果測定		パルスサーベイ 効果測定		パルスサーベイ 効果測定	

### 「組織基盤構築」と「将来課題対応」

「組織基盤構築」と「将来課題対応」の違いを整理しました。 「組織基盤構築」においては、マイナスを発生させないことが重要であり、 コミュニケーション施策に投資することが有効です。



### 参考:低レーティング部署への個別フォロー

### エンゲージメントスコアの低い組織・属性については、 事務局や上位役職者など、第三者が介入することが効果的です。

レーティング	スコア	組織状態	改善活動の方向性
ccc	48未満	信頼関係に 不安がある状態	
ССС	45未満		上長や事務局などの 「 <b>第三者」</b> に協力を仰ぎ、 メンバー(部下)との信頼を構築する
С	42未満		53.2 Un 18
DDD	39未満	信頼関係が崩れ 再構築が必要な状態	経営課題として、
DD	33未満	• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	権限を持つ人物(管掌役員など)が 責任者として対応する

「問題を解決できる人物」を責任者に設定

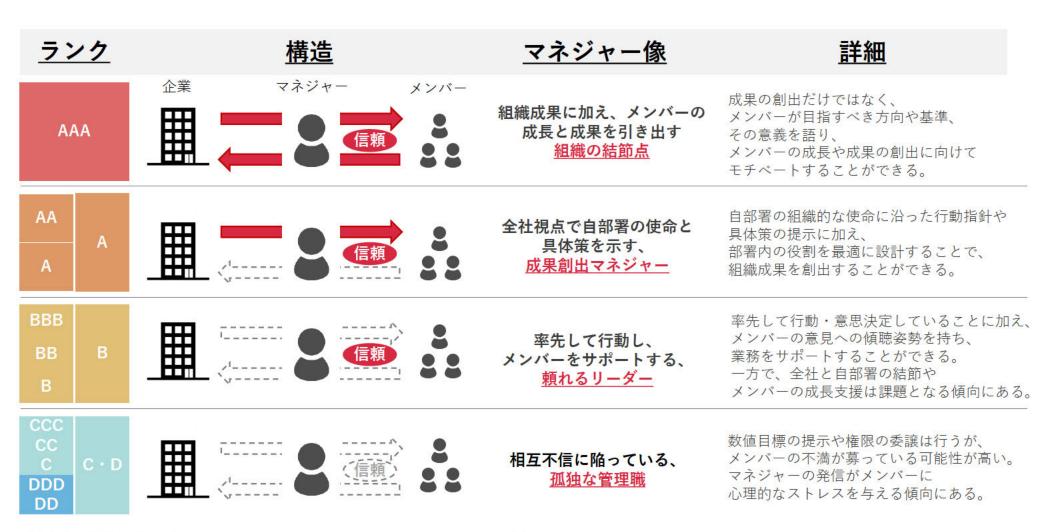
サーベイ結果からESの低い組織・属性については、

問題解決に最適な人物を責任者に設定することが大事です。

参考:誰が:役員や部長、何を:感情的問題を解決する、どのように:職場共有会への参加/面談等

### 参考:マネジメントサーベイから見えてきたランクごとのマネジャーの特徴

各ランクにおける傾向を把握することで、 マネジャーの適切な育成方針の策定を行うことができます。



#### マネジャーには下記4つの機能が求められます。

#### 情報提供

#### ●戦略情報の提供

自部署とそのメンバーをとりまく環境(業界動向、顧客のニーズ、競合の動向、 会社方針等)に関する情報を把握し、メンバーに情報を提供する。

#### ●役割情報の提供

メンバーが業務を遂行するにあたって必要となる情報(自部署の使命・目標等を提供すると共に、役割や責任範囲を明確にし、具体策を示す。

#### 情報収集

#### ●役割情報の収集

自部署内の連携状況、他部署との連携状況を把握すると共に、メンバー 個々人の持ち味や要望をつかむ。

#### ●進捗状況の収集

自部署の業務の進捗状況を把握し、個々人の成果を確認すると共に、 トラブルの発生や個々人の課題を把握する。

#### 判断行動

#### ●基準提示と人事評価

メンバーに求める行動や考え方のポイント、業務に関する評価基準を 明確に提示し、基準に従って公平に評価を行う。

#### ●意思決定と率先垂範

どのような状況においても迅速な意思決定を行い、またマネジャー自らが 模範となるよう積極的に行動する。

### 支援行動

#### ●人材開発と業務支援

部下にノウハウの伝授、チャレンジする機会の提供を行い、部下のコンディションを気にかけ、壁にぶつかった際には適切にサポートする。

#### ●動機形成と意欲喚起

業務の背景や意義の伝達、部下へ適切な権限委譲を行い、またオープンに 部下の意見を募り、優れた意見や企画を取り入れる。

### 参考:組織変革のメカニズム

#### ポジティブな言動及び認識が「臨界点」を超えることで、組織が変わります。



















### 「変革」の2つのプロセス

### 変革フェーズにおいては、「組織基盤の構築」と「将来課題の対応」の 2つのプロセスに分けて対応することが有効です。

将来課題の 対応

# ありたい姿の実現

・人に例えると:マラソン大会に出る

組織基盤の 構築

# 顕在化している問題の解消

・人に例えると:風邪を治す

### 「組織基盤構築」と「将来課題対応」

「将来課題対応」においては、プラスに光を当てることが重要であり、 まずは「ありたい組織の姿」をイメージすることが重要です。

